

## 衛生委員会議事録（第 29 回）

日 時	2019 年 10 月 18 日 17 : 00	
場 所	本社会議室 Milan (8 人円卓)	
出席者	委 員 長	人事総務部 高野
	産 業 医	諏訪内医師
	衛生管理者	人事総務部 高野
	事 務 局	人事総務部 清水
	委 員	内部監査室 神原、マーケティング部 原、 マーケティング部 佐藤、営業推進部 松坂
議 題	(1) 休職者・労働災害・長時間労働者の報告 (2) 産業医の講話	
決定事項・報告事項	<p>(1) 2019 年 9 月度について、休職者、長時間労働者、労働災害の状況について説明があった。</p> <p>(2) 諏訪内医師より、インフルエンザ対策について衛生委員会委員が受講。内容は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器系感染症。風邪に比べて症状が重く、乳幼児や高齢者では重症化することもある。</li> <li>・インフルエンザの症状は、38 度以上の発熱、全身症状（頭痛、関節痛、筋肉痛など）局所症状（のどの痛み、鼻水、くしゃみ、咳など）。また、急激に発症し、12 月から 2 月流行のピークとなる（※4 月、5 月まで散発的に続くこともある）。</li> <li>・インフルエンザウイルスには A 型、B 型、C 型と呼ばれる 3 つの型がある。これらのウイルスのうち A 型と B 型の感染力はとても強く、日本では毎年約 1 千万人、およそ 10 人に 1 人が感染している。</li> <li>・予防としては、インフルエンザワクチン及び手洗い、マスクが効果的。</li> <li>・インフルエンザワクチンにより、65 歳未満健康者の発症を約 80% 低減可能。</li> <li>・手洗いやアルコール消毒、発症者のマスク着用で、それぞれ 50% 程度の予防効果がある。</li> <li>・解熱鎮痛薬について、インフルエンザ脳症のリスクを高める可能性のある「NSAIDs」は避け、「アセトアミノフェン」を選んだほうがよい。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"><li>・インフルエンザにおける出社停止期間については、「発症したあと5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで」が妥当。</li></ul>
その他	